

電動建機

圏央道舗装工事で試行

環境省が取り組む電動建設機械普及促進の一環で、電動ローラーを使うことが分かった。NEXCO東日本関東支社が発注し、大成ロテックが施工する「首都圏中央連絡自動車道成田舗装工事」の現場で、14日から28日までの期間

施工Ⅱ大成ロテック

に、路盤準備工や下層路盤工などの作業で電動ローラー（3社で計5台）を試行使用する。また、一部の電動ローラーは、HVO（水素化処理植物油）焚き発電機による給電方法を採用する。

電動ローラーによる試行作

環境省 電動ローラーは初めて

業に当たり、NEXCO東日本と大成ロテックの協力を得た。環境省がかかわる、さまざまなケースでの電動建機による試行作業は、これまでミニショベルの使用がほとんどだったが、電動ローラーでの試行作業は初めてとなる。

試行使用する現場は、圏央道（大栄JCT～松尾横芝IC）事業に伴う、大栄JCT～国道296号IC（仮称）間の舗装工事。工事場所は千葉県成田市～多古町。

使用建機は、酒井重工業の電動ハンドガイドローラー「HVG20evo」、電動油圧方式コンバインド振動ローラー「TW354evo」、電源関係の課題などを整理す

フル電動方式コンバインド振動ローラー「TW504evo」、酒井重工業のディーゼルトライローラーを西尾レントオールの子会社である新トモエ電機工業の製造ラインで改造したタイヤローラー「TZ701ニシオ改」、三笠産業の電動ハンドガイドローラー「MRHe503」の3社5台。

給電方法は、小規模の電動ハンドガイドローラー2台がバッテリー交換式、ほかの3台がHVO焚き発電発電機と使う予定だ。環境省は今後も、適用可能な現場や普及促進に向け必要な政策を検討していく。

※無断転載・複写不可